

## 平成29年度 英語科 授業改善推進プラン

### ①現状・観点別分析

- [全学年]「授業アンケート」では、「学習のめあてや流れの提示」、「反復練習等による知識・理解の定着」について80%以上が満足している。
- [1学年] 定期考査Ⅰにおける観点別評価の達成状況では、「理解の能力」が89.5%、「知識・理解」が88.9%に対し、「表現の能力」が80.7%であった。
- [2学年] 観点・領域別達成度検査では、本校は全国平均と同じ57.3%であった。観点別では「表現の能力」でC評価の割合が全国平均より6.5ポイント下回っていた。「児童・生徒の学力を図るための調査」では、都の平均65.0%に対して、本校66.7%と上回っていた。観点別では「知識・理解」が都の平均を5.0ポイント以上、上回っていた。
- [3学年] 観点・領域別達成度検査では、全国の平均55.4%に対し、本校の平均は58.9%と上回っている。また、全ての観点において本校のA評価の生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。一方で、「表現の能力」ではB評価の生徒の割合が全国平均を5.9ポイント下回った。

### ②課題

- [全学年] 英語で話したり、書いたりして自分の気持ちや考えを伝える「表現の能力」と、英文を読み、内容を把握する「読解力」に課題がある。
- [1学年] 全体的に、英語を話したり、聞いたりすることは得意であるが、英文を書くことに課題がある。
- [2学年] [3学年] 下位層については、基礎・基本の定着を図ることが課題である。また、中・上位層を伸ばすために、「表現の能力」・「読み解く力」を伸ばすことを主眼においた授業展開をしていくことが更に必要である。

### ③具体的な改善策

- 【「基礎・基本の定着」を高めるために】
  - 帯活動の時間を活用しながら、前時までの復習も兼ねた反復練習等を継続して行う。
  - ペアワーク活動を積極的に行い、生徒同士で教える機会をより多く設ける。
  - 状況に応じてICT機器を活用し、写真や動画などを適宜見せ、本文の内容理解などに役立てていく。
- 【「表現の能力」を高めるために】
  - ライティングノートを使い、授業や家庭学習で多くの英文を書くようにさせる。
  - 本文の暗唱、スピーチ、パフォーマンステスト等、英語で発表する機会を多く設ける。
- 【「読み解く力」を高めるために】
  - 教科書以外のまとまった文章に触れる機会を学年が上がるにつれて増やしていく。